

2011年度 変額年金保険(特別勘定)決算のお知らせ

**Grand
Design**

グランド デザイン

変額個人年金保険I型(年金受取総額および死亡保険金額保証特則付)



- 当資料は、特別勘定の運用状況等を報告するための資料であり、生命保険契約の募集または特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の勧誘を目的とするものではありません。
- この商品は、特別勘定の運用実績に基づいて死亡保険金額、積立金額、解約返戻金額等が日々変動(増減)する変額個人年金保険(生命保険)です。
- 当資料に記載された過去の運用実績に関するいかなる内容も、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

2012年7月作成



Gibraltar
ジブラルタ生命

ご契約者のみなさまへ

弊社保険につきまして、日頃よりご愛顧、ご継続をいただき誠にありがとうございます。
さて、2011年度の決算を終えましたので、特別勘定についての決算概要をご報告申し上げます。

1. 市場動向 (2011年4月1日～2012年3月31日)

【市場動向】

2011年度の国内債券市場は、10年物国債利回りで1.3%近傍から始まりましたが、ギリシャを中心とする欧州債務問題や、米経済指標の悪化、貿易収支など日本の経済指標にて震災の影響が強く現れ始めたことを受け、世界景気への先行き懸念から金利は低下基調を辿りました。8月には日銀が追加金融緩和に踏み切り、一時1.0%を割り込みました。9月以降は、1.0%を挟んだレンジ内での推移となりました。

外国債券市場は、米10年物国債利回りが9月にかけて低下傾向で推移しました。8月には米大手格付け機関により米国債が格下げされましたが、「質への逃避」を背景とした良好な需給環境により影響は限定的となりました。年度後半には米景気回復への期待感が高まったことでリスク選好姿勢が強まりましたが、金融緩和策の長期化やFRB（連邦準備制度理事会）による長期国債の大規模な購入などから、金利は低位安定となりました。

国内株式市場は、7月後半以降、米債務問題への懸念やそれを背景とする円高進展を受け、株価が大幅に下落しました。その後も歴史的な円高ドル安局面やタイにおける洪水発生など、業績悪化懸念から軟調となりました。しかし、1月中旬以降は、良好な米経済指標や日銀による金融緩和策拡大、それらを背景とした円安ドル高の進展などにより、国内株式市場は急騰し、日経平均株価は期初の水準を上回り、10,000円の大台を回復して期末を迎えました。

外国株式市場は、米債務問題の混迷を受け7月から8月にかけて急落しました。しかし、その後は米経済指標の改善や日米欧の主要中央銀行によるドル資金の協調供給の合意、FRBによる追加金融緩和期待を背景に、期末にかけて上昇基調に転じました。

為替相場は、期初に1ドル85円を上回る水準まで上昇しましたが、その後は世界景気の先行き懸念が高まったことに徐々に円高基調となり、米GDPの悪化を受けて、7月末には1ドル76円台まで円高が進みました。その後、2度にわたって当局による円売り介入が行われたものの効果は一時的なものに留まり、ドルは概ね76円～78円水準で推移しました。しかし、1月中旬以降、日本の貿易収支が大幅に悪化したことや日銀による追加金融緩和を背景に、一時84円台まで円安ドル高が進みました。

【主な市場の動向】

	日経平均株価 (円)	10年国債利回り (日本)	NYダウ平均株価 (US\$)	10年国債利回り (米国)	ドル円相場	ユーロ円相場
2011年3月末	9755.10	1.255%	12319.73	3.47%	83.15	117.57
2012年3月末	10083.56	0.985%	13212.04	2.21%	82.19	109.80
変化率	3.4%	0.27%低下	7.2%	1.26%低下	-1.2%	-6.6%

2. 保有契約高

	件数	金額 (万円)
変額個人年金保険 I 型 (年金受取総額および死亡保険金額保証特則付)	31	6,400

3. ユニットバリューと運用利回りの推移

	ユニットバリュー	運用利回り
2011年3月末	88.5579	
2011年4月末	88.9269	+0.42%
2011年5月末	87.7180	-0.95%
2011年6月末	88.5946	+0.04%
2011年7月末	88.6888	+0.15%
2011年8月末	85.0417	-3.97%
2011年9月末	83.9417	-5.21%
2011年10月末	84.3151	-4.79%
2011年11月末	83.4750	-5.74%
2011年12月末	83.9001	-5.26%
2012年1月末	84.8273	-4.21%
2012年2月末	88.9659	+0.46%
2012年3月末	90.6662	+2.38%

(注) ユニットバリューとは、会社としての運用開始時を100として持分1口あたりの価値を意味します。
運用利回りはユニットバリューの2011年3月末からの伸び率を記載しております。

4. 資産の内訳

	金額	構成比
現預金・コールローン	1,111	1.9
その他の有価証券	57,065	97.9
その他	94	0.2
合計	58,271	100.0

5. 運用収支状況 (2011年4月1日～2012年3月31日)

	金額
利息配当金収入	—
有価証券評価益	2,897
その他の収益	—
有価証券評価損	1,505
その他の費用	75
収支差計	1,316

6. 特別勘定の運用状況(特別勘定名) 国内バランス50

■運用方針

当特別勘定資産の運用は、主として「プルデンシャル私募国内株式・債券バランスファンド(適格機関投資家向け)」(運用会社: プルデンシャル・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社) に投資することにより行います。

■運用内容

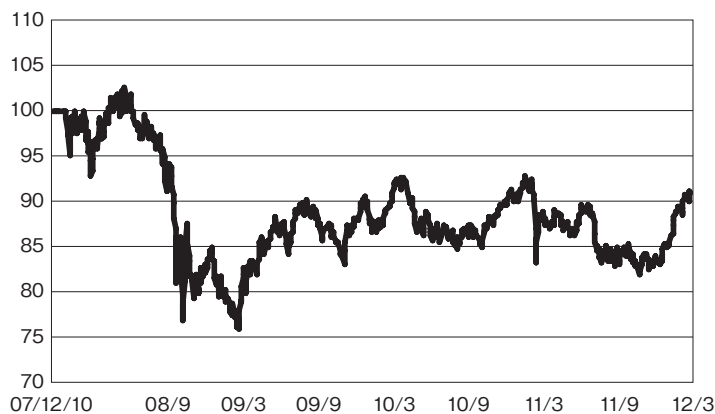
特別勘定への資金の流入に合わせ、上記投資信託の組入れ比率を高水準に保つ運用を行いました。

当年度末の投資信託の組入れ比率は98.1%です。

当年度末のユニットバリューは90.6662となっております。また、設定来のユニットバリュー騰落率は-9.33%となりました。

※投資信託の組入れ比率は、投資信託の買付・解約により発生する未払金・未収金を調整した実質的な投資信託の比率であり、特別勘定資産合計に対する構成比率とは異なります。

■ユニットバリューの推移と運用利回り



設定日: 2007年12月10日

	ユニットバリュー	運用利回り
2011年3月末	88.5579	
2011年4月末	88.9269	+0.42%
2011年5月末	87.7180	-0.95%
2011年6月末	88.5946	+0.04%
2011年7月末	88.6888	+0.15%
2011年8月末	85.0417	-3.97%
2011年9月末	83.9417	-5.21%
2011年10月末	84.3151	-4.79%
2011年11月末	83.4750	-5.74%
2011年12月末	83.9001	-5.26%
2012年1月末	84.8273	-4.21%
2012年2月末	88.9659	+0.46%
2012年3月末	90.6662	+2.38%

(注) 運用利回りはユニットバリューの2011年3月末からの伸び率を記載しております。

(単位: 千円)

■保有有価証券の明細

銘柄名	種別	時価額
プルデンシャル私募国内株式・債券バランスファンド(適格機関投資家向け)	投資信託	57,065

ご契約に関する
ご照会は
コールセンターまで

☎ **コールセンター** フリーダイヤル  **0120-59-2269** ジブロック

受付時間 平日8:30～20:00 / 土曜9:00～17:00 (日・祝・12/31～1/3を除く)